

— 農林事務所管内の動き —

1 福岡農林事務所管内

■ 農業

- ・ 第 24 回福岡県農林水産まつり表彰式典において、麻生正雄氏（福津市）と糸島稲作経営研究会（糸島市）が農産部門で農林水産賞の名誉賞を、山崎幹男氏（筑紫野市）が畜産部門で優秀賞を受賞。
- ・ 福津市でいちご生産を行っている法人が、吊り下げ式の栽培槽（ハンギングガター）を用いた高設栽培の面積を 50 a から 82 a に拡大。栽培槽を交互に上下させることで作業性を確保しつつ作付株数を増やし、一般的な高設栽培の 1.7 倍の収量を目指す。
- ・ 国内初となる牛のランピースキン病の発生を管内 18 農場で確認。家畜市場への子牛出荷自粛により、農場では滞留問題が発生。県は令和 7 年 2 月補正予算により緊急支援事業を創設し、影響を受けた農場を支援。
- ・ 古賀市では、関係機関で構成する農業者支援会議で検討を重ね、就農希望者に対し就農への心構えや就農準備などについて、助言や支援を行う「新規就農アドバイザー」を 4 人、就農体験を実施する「就農体験受入農家」を 5 人、推奨品目の栽培指導を行う「トレーナー農家」を 4 人設置。就農相談から定着まで支援する担い手育成支援制度を構築。
- ・ J A 糸島胡瓜部会は、5 年度産から 2 年連続で販売金額 5 億円を達成。6 年度産は、全国的な夏季の高温やウイルス病の影響による厳しい栽培条件の中、遮光剤の使用や定期的な防除、現地検討会の開催など部会員の努力により、販売金額が増大。
- ・ 古賀市の薦野清滝地区では、担い手の農地集積・集約化を図るため、農地中間管理機構と連携し、農地の集団化・大区画化を行う農地整備事業の工事に着手。

地域のトピック

○ 第 24 回福岡県農林水産まつり表彰式典で、糸島稲作経営研究会が名誉賞を受賞

- ・ 令和 7 年度で設立 40 周年を迎える糸島稲作経営研究会は、会員同士による生育情報の共有や、講師を招いた研修会の積極的な開催により、糸島地域の農業発展に大きく貢献。
- ・ また、県で育成された水稻品種を率先して試験栽培し、普及推進を図るなど、県内の水田農業の発展に寄与。
- ・ さらに、研究会には、各種表彰で農林水産大臣賞を受賞するなど、高い栽培技術を持つ会員が複数名在籍しており、会員同士の技術研鑽に積極的に取り組む。
- ・ これらの取組が評価され、第 24 回福岡県農林水産まつりにおいて名誉賞を受賞。



福岡県農林水産まつり表彰式典



会員によるほ場巡回

■ 林業

- ・市町村が中心となり森林の適切な経営や管理を進める制度である森林経営管理制度について、新たな試みとして、管内の市町を4地区に分け、少人数のグループで森林管理に関する意見交換を実施。市町職員の制度への理解が深まったことで、より有効的な制度の活用に期待。
- ・松くい虫防除対策の一環として、一般財団法人日本緑化センターから講師を招き、ドローンを使用した薬剤散布の方法やメリットについて、市町や国の職員を対象に研修を実施。風の影響や費用面など多くの質問があり、関心の高さがうかがえ、ドローンの特徴であるきめ細かな薬剤散布により、松くい虫防除対策の一助となることを期待。
- ・古賀海岸において海岸のマツの植栽に合わせて設置している総延長1,370mの丸太防風工※は、経年劣化が進行していることから、令和8年度にかけて計画的な撤去を開始。また、植栽して間もないマツがある箇所については、丸太防風工の再設置を実施。
- ・5年梅雨前線豪雨により、那珂川市、宗像市地島の2か所で林地が被災。県が災害関連緊急治山事業により復旧工事に着手し、6年度に完了。

※丸太防風工：植栽初期における植栽木を強風等から保護し、その成長を助長するための防風柵。

地域のトピック

○ 森林管理道「小葉山線」が全線開通

- ・篠栗町の町道鳴淵萩尾線なるふらはぎのおと町道呑山尾崎線のみやまおさきを結ぶ森林管理道「小葉山線」（総延長3,452m、幅員4.0m）が平成30年度に着工し令和5年度に完成。6年度から本格的に全線運用を開始。
- ・本林道は、町道とつながっていることから、地域林業の振興のみならず、災害時のう回路や生活道路の役割に期待。
- ・同町は、森林の癒し効果が認められた地域として「森林セラピー基地」の認定を受けており、森林を活用した観光を進めていることから、アクセス改善による観光振興にも期待。



森林管理道「小葉山線」1工区



森林管理道「小葉山線」全景

2 朝倉農林事務所管内

■ 農業

- ・あさくら地域4Hクラブ平田英輝氏（筑前町）が、福岡県青年農業者会議のプロジェクト発表の部で、知事賞（優秀賞）を受賞。クラブ員自らが経営について学び、分析によって目標を明確にしている点が高く評価。
- ・JA筑前あさくらは、令和4年度に災害復旧した園地に開設した「朝倉フルーツファーム」を、被災農家である研修者1人に経営移譲。スモモのハウス栽培と、早期成園化が可能となる低樹高V字ジョイント及びジョイント平棚技術の導入により、早期の営農再開を実現。
- ・JA筑前あさくら、JAにじ及びJAくるめ梨部会では、梨の県育成品種「玉水」の生産量が増加。今後、果実肥大促進を目的とした新梢管理の実証を進め、ブランド力強化を図る。
- ・JAみいでは、近年高まる健康志向や有機農産物への需要に応えるため、JA部会員の有機JAS認証取得を支援し、小松菜部会の1戸が初めて認証を取得。安全安心な農産物として、今後の販路拡大に期待。
- ・朝倉及び久留米普及指導センターは、管内花き産地の競争力強化のため、JA（花き農協含む）や市町村などの関係機関と連携。新技術導入やオリジナル品種の安定生産支援や経営改善指導、公共施設での飾花活動などに取り組み、規模拡大による出荷量拡大や各種品評会での受賞など、花き産地の強化に貢献。
- ・JAくるめは、西南と東部のカンントリーエレベータ設備の機能向上により、水稻・麦の荷受体制を効率化。高温耐性水稻品種の導入や適期収穫による高品質化を図り、生産者の所得増大を見込む。
- ・東峰村は、捕獲した有害鳥獣を有効に活用するため、獣肉処理加工施設を設置。今後の地域活性化に寄与することを期待。
- ・うきは市の大野原地区では、なし、ぶどうなど高収益作物の安定生産、高品質化に資するため、隈の上川からポンプで汲み上げた水を果樹園に送るパイプラインをはじめとする、かんがい施設を整備。6年9月に全受益地へ用水の安定供給が可能となる。

地域のトピック

○ 江頭和彦氏（久留米市）が令和5年度全国豆類経営改善共励会九州農政局長賞を受賞

- ・江頭氏は、大豆12.3ha、水稻8.8ha、麦類22.3haを作付けする土地利用型農業を経営。同一集落内の農事組合法人のオペレーター作業を行うほか、近隣農家の大豆収穫作業や水稻・麦類の防除作業を受託するなど、地域農業にも貢献。
- ・適期播種を確実にを行うため、種子消毒や播種前の除草剤散布作業を、スケジュールを立て実施。部分浅耕—工程播種技術やドローンによる防除、自動操舵システムの導入による省力・低コスト栽培を実践し、県平均を上回る収量を確保。



表彰を受けた江頭氏

■ 林業

- ・令和5年梅雨前線豪雨で被災した林地については、災害関連緊急治山事業で早期完成を目指し事業を推進。また、同豪雨による林道施設災害復旧事業を、管内3市町村（久留米市、朝倉市、東峰村）において17路線66か所で実施。久留米市、東峰村については復旧が完了。
- ・朝倉市の福岡県樹苗農業協同組合では、国庫事業を活用し、花粉が少なく成長や材質も良好なスギ特定苗木の親木を育成。良質な少花粉サシスギ苗の増産体制づくりを推進。
- ・うきは市では、野生動物による被害防止対策のため、野生動物緩衝林整備事業を活用し、5年度から農地周辺で里山林の除間伐を延べ1.78ha実施。野生動物との緩衝帯を形成することにより農林業の被害軽減を目指す。
- ・うきは市の製材工場では、県の補助事業を活用し、木材乾燥機3基、製材品の搬送機1式、モルダーギャング※1基を導入し、高品質な製材品の供給力を強化。

※モルダーギャング：木材を小割し、表面を滑らかにする加工機。

地域のトピック

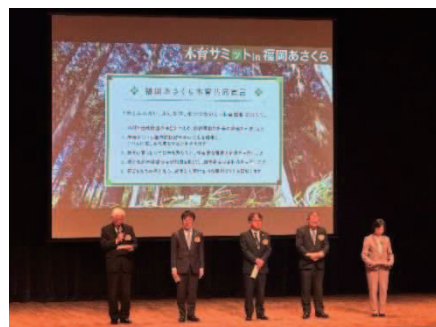
○ 「第12回木育サミット in 福岡あさくら」を朝倉市で開催

- ・全国での木育※の普及を推進するイベント「木育サミット」が、令和6年11月に朝倉市で開催。特定非営利活動法人芸術と遊び創造協会の主催で、「森と都市をつなぐ木育」をテーマに、全国各地の先進的な木育活動を紹介するとともに、木育が果たすべき役割について議論。
- ・朝倉市をはじめとする地元代表者5人が、木育を通じて市民や様々な業界とつながり合い、持続可能な社会の構築に貢献しようという意志を表明する「福岡あさくら木育共同宣言」を発表。

※木育：子どもから大人までを対象に、木材や木製品とのふれあいを通じて、木材の良さや利用の意義を学ぶこと。



第12回木育サミット in 福岡あさくら



福岡あさくら木育共同宣言の発表

3 八幡農林事務所管内

■ 農業

- ・北九州市小倉南区の特産品である大葉春菊を、大葉春菊出荷組合の若手生産者が中心となり「うまかろーま®」として商標を取得。ネーミングやパッケージデザインにも自ら取り組み、SNSを積極的に活用して大葉春菊のブランド力を強化。
- ・北九州市若松区では、「若松潮風®」ブランドとして、新たに「若松潮風®ブロッコリー」の出荷を開始。プロモーションビデオやパンフレットを作成し、マスメディアを通じたブランディング活動を展開。
- ・野鳥対策の専門家を招き、岡垣町でヒヨドリ・カモ類による農作物被害対策研修会を開催。カモ類による被害対策として芦屋町が水路に設置したテグスの事例を発表するなど、農業者をはじめ、JAや関係機関で情報を共有。地域ぐるみでの対策のきっかけとして、今後の鳥獣被害軽減に期待。
- ・令和6年度「ふくおか6次化商品セレクション」で、「赤しそドリンク」（北九州農業協同組合）が福岡県農業協同組合中央会会長賞を受賞。芦屋町・遠賀町産の芳香赤しそと遠賀町産のはちみつを使用しており、鮮やかな赤色と爽やかな酸味が評価。
- ・岡垣町の新松原第二排水機場で、機能保全計画に基づいた長寿命化対策工事が完了。これにより、豪雨による冠水被害の軽減に貢献。
- ・6年度福岡県麦作共励会（農家の部）で、中間市の花田正則氏^{はなだまさのり}が最優秀賞（県知事賞）、特別賞（福岡県農業協同組合中央会会長賞）を受賞。さらに、県代表として6年度全国麦作共励会（農家の部）に出品。九州ブロック審査で、全国米麦改良協会会長賞を受賞。県平均を大きく上回る単収が評価。
- ・6年度福岡県青年農業者会議において、北九州市若松区の田中義一氏^{たなかよしかず}が福岡県農業指導功労者として表彰。長年に渡り、地域農業の発展に貢献された実績が評価。
- ・福岡県農林水産まつりで、岡垣町の早苗泰博氏^{さなえやすひろ}が農林水産賞園芸部門名誉賞を受賞。また、遠賀町の農事組合法人おざきファームが同農産部門優秀賞、北九州市若松区の藤島在寛氏^{ふじしまざいかん}が同畜産部門優秀賞を受賞。

地域のトピック

○ 北九州市小倉南区に野菜集出荷施設が完成

- ・北九州農業協同組合が、地元野菜の周年出荷を目的として、産地生産基盤パワーアップ事業を活用し、集出荷施設（1,260㎡）を整備。
- ・選果機・予冷库等を整備することで集荷率向上、流通コスト低減、販売額増加に期待。
- ・主な取扱品目は、トマト類、なす、大葉春菊などの軟弱野菜。
- ・新たな集出荷施設を核として、ブランド野菜の生産拡大、えだまめ、たまねぎといった新規品目の作付けを推進。



新たに完成した
野菜集出荷施設（外観）

■ 林業

- ・北九州市、北九州市森林組合及び住宅メーカーなどの5者が、令和4年度に「地域材の利用拡大に関する建築物木材利用促進協定」を締結し、5年度から間伐材を活用した住宅建設に着手。6年度は、前年度の3棟を大幅に上回る85棟の住宅に市産材を活用。
- ・北九州市森林組合が策定した中期経営計画における目標の一つである「林産事業の推進」を支援するため、若手職員4人に対して、森林経営計画や森林整備計画の検討・策定を行う、スキルアップ研修を計4回実施。
- ・北九州市森林組合に対する労働安全の啓発指導のため、労働基準監督署との合同パトロールを実施。また、同組合の現場作業者に対し、安全意識の向上に向けたチェーンソー講習会を実施。
- ・花粉症対策を進めるため、森林整備事業のメニューに新設された林相転換特別対策（特定スギ人工林）を活用し、伐採から再生林までの一貫作業による広葉樹や少花粉スギへの転換を促進。6年度は、北九州市において2.63ha実施。
- ・北九州市を事業主体として、北九州市小倉南区で平成9年度に着工した森林管理道「合馬線」が、令和7年3月に全線開通。（幅員4.0m、全延長4,246m、利用区域内の森林面積172ha）

地域のトピック

○ ギラヴァンツ北九州と連携した木育の活動

- ・八幡、飯塚、行橋の3農林事務所が協力して、「遠賀川流域・木育プロジェクト」を立ち上げ、産学官連携による、「地域材」の利活用と「地域材」をツールとした人と木・森林をつなぐ木育を展開。
- ・近年、地産地消の活動にも注力しているJ3サッカーチームのギラヴァンツ北九州と連携し、令和6年7月及び10月に親子木工教室を開催。
- ・木工教室を通して、森林のはたらきや「伐って、使って、植えて、育てる」林業のサイクルを知る木育を実施。



スタジアム構内で開催した
親子木工教室



スタジアム「横ギラ☆ランド」にて
木のおもちゃ製作（10月）

4 飯塚農林事務所管内

■ 農業

- ・福智町伊方地区では、農事組合法人伊方ファームが、周年安定生産による経営の安定化を図るため、園芸品目として白ねぎの栽培に取り組み、国の事業を活用して、播種、収穫、調製機械を導入。さらに、現在基盤整備を実施している別の農事組合法人も白ねぎ生産を計画しており、産地の拡大に期待。また、JAたがわは白ねぎ生産者に共同販売を提案し、新たに白ねぎ部会が発足。
- ・直鞍地域では、園芸作物の生産者確保に向け、「JA全農ふくれん県北地区広域販売センター」が調製・出荷作業を請け負う、なす、いちご、ブロッコリー、いちじくの新規作付を推進。その結果、令和5年度からの2年間で、新たに新規就農者を含めた15人が、これら園芸作物の生産を開始。
- ・飯塚市では、農家カフェを経営する女性農業者が、「農林漁業女性ベンチャー育成事業」を活用し、いちごを加工した新商品の開発に必要な機器を整備するとともに、専門家の助言を受けながら商品を開発。今後、地元4社の応援企業との取引を予定。
- ・直方市の植木地区では、設置後30年以上経過した、揚水施設やファームpondといった農業水利施設の長寿命化・ライフサイクルコスト低減を図るため、平成30年度から開始した施設更新事業が6年7月に完了。
- ・6年度ふくおか6次商品化セレクションにおいて、直方市のジェラート専門店CHICHIIYAの「3種のふくのかきジェラート（博多あまおう、博多甘うい、まるごと巨峰）」が事業者部門で知事賞を、嘉麻市の大里酒造株式会社が「めろん奈良漬（大里酒造×ヤマオカサンチ）」で福岡県商工会連合会会長賞を受賞。

地域のトピック

○ 株式会社鳥越ネットワーク（赤村）が全国優良経営体表彰で受賞

- ・赤村の株式会社鳥越ネットワークが、令和6年度全国優良経営体表彰の販売革新部門において、全国担い手育成総合支援協議会長賞を受賞。
- ・全国各地の有機栽培に取り組む農業者とネットワークを構築し、40品目以上の農作物を安定的に出荷するとともに、自社農園では全国的にも珍しい有機JAS認証セルリーを生産、販売。長年にわたり有機農産物へのニーズに対応してきた実績を基に、有利な取引関係を実現できていると高い評価。



表彰を受ける株式会社鳥越ネットワークの
鳥越耕輔 代表取締役社長（写真中央）



有機JAS認証セルリー

■ 林業

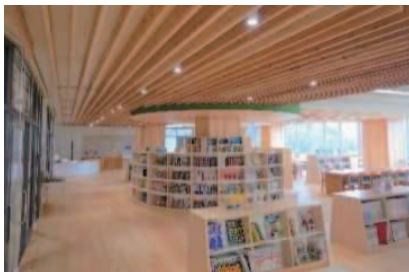
- ・筑豊地区森林・林業推進協議会では、労働環境の改善や過去の経験に頼る林業からの脱却を目指した「林業イノベーション研修」を開催。木材生産の効率化や労働災害の防止といった課題解決に向け、最新の林業機械による省力化の事例を林業事業体や市町村職員 38 人に紹介。今後も、魅力ある林業の実現に向けた取組を継続。
- ・森林整備工事を発注する市町村には、林業専任の技術職員が少なく、伐採作業の安全意識の向上が課題。このため、嘉麻市及び添田町で市町村職員を対象とした伐採研修会を開催。かかり木処理の見学や丸太切りを初めて体験し、参加者からは「伐採作業は危険性が高いことを認識した」といった声が聞かれ、安全意識が向上。
- ・防災重点農業用ため池の貯水機能を保全するため、農林事務所では市町村と連携し、山地災害の危険性があるため池上流部で治山ダムの整備を推進。令和 6 年度は香春町採銅所地区の平ノ浦ため池上流部に治山ダム 1 基を整備。
- ・宮若市の安田克徳氏^{やすだかつのり}が、日本特用林産振興会の第 37 回特用林産功労者表彰を受賞。施肥やウラ止め※といった生産竹林の適正管理による高品質なたけのこ生産や、山間部における地域雇用及び指導林家として後継者育成に尽力したことが高く評価。

※ウラ止め：発生するタケノコを小型化するために、若い竹の先端を切り落とす作業。

地域のトピック

○ 地域材を活用した添田小中学校校舎が完成

- ・森林面積が 8 割を占める添田町では、令和 7 年 4 月に開校した小中学校の建設に、伐期を迎えた町有林材などの地域材を活用。地域材は素材生産者や製材、加工、施工といった異なる業種の事業者が連携して円滑に調達。
- ・校舎の床や壁といった内装や学習机などに地域材をふんだんに使用。市町村担当者や林業関係者向けの内覧会では「想像以上に木材が使用され、教育環境として素晴らしい」といった声も多く、木材利用の機運向上に期待。
- ・地元の小学校で開催した森林教室では、児童が「伐って、使って、植えて、育てる」ことの重要性を学ぶとともに、町有林の伐採跡地に、早生樹であるセンダンの苗木を植栽。



木質化した学校



伐採跡地へのセンダン植樹

5 筑後農林事務所管内

■ 農業

- ・ J Aみなみ筑後、J A福岡大城では、従来大豆品種「フクユタカ」から、県育成大豆品種「ふくよかまる」（ちくし B 5 号）への切替が進み、農林事務所管内での全面切替が完了。県域では令和 7 年度に全面切替の予定。
- ・ 南筑後地域の促成なす栽培では、炭酸ガス局所施用技術をはじめとした環境制御技術を活用したスマート農業を推進。なかでも環境測定装置導入者の平均収量は部会員平均と比べて 20% 多く、燃油使用量削減効果と合わせて生産性が向上。
- ・ みやま市山川町甲田地区では、生産性の向上のため、県が令和 12 年度までに約 26ha の大規模樹園地の造成を計画し、7 年度より本格的に着手。完成後は約 20 戸の農家がみかんを中心とした生産に取り組む。
- ・ 「福岡の八女茶」では、抹茶の原料となる碾茶^{てんちや}の生産拡大に向け、法人経営体を中心に茶工場の整備が進む。近年、海外では健康志向や日本食ブームを背景に、抹茶の需要が伸びており、取引単価も高く推移。
- ・ 管内 J A では「物流の 2024 年問題」への対応のため、いちごやかんきつで統一規格の 11 型レンタルパレットを活用し、荷物の積み下ろし作業の時間短縮や負担軽減を図り、新たな流通体制の構築に取り組む。

地域のトピック

○ 八女市出身料理長がドバイのホテルで八女市特産物の利用に意欲

- ・ 令和 7 年にアラブ首長国連邦の都市ドバイの高級ホテル内でオープンを予定している和食レストランの料理長に、八女市出身のシェフが起用。料理長はオープンに向けて、食材の選定やメニュー開発を進めており、八女茶や日本酒、伝統工芸品といった市の特産品をレストランに取り入れるため、試飲や茶園視察を実施。
- ・ 八女市では、高品質な食材や伝統工芸品を世界に発信し、輸出も視野に入れた消費拡大を目指す。



八女市産日本酒の「麴づくり」について説明を受ける料理長

■ 林業

- ・八女の林業が抱える課題について、八女市、広川町及び福岡県八女森林組合で情報共有し、解決に向けた対応を協議するため、八女林業推進会議を開催。課題となっている労働安全対策、造林未済地対策、花粉発生源対策の解決を目指す。
- ・福岡県八女森林組合では、主伐後の再造林に使用しているスギ品種について、将来的にすべて「花粉の少ない苗木」に切替えることが目標。必要となる穂木の確保のため、採穂園を八女市黒木町に追加造成したほか、苗木生産者の技術向上を図るための講習会を開催。
- ・一般社団法人ワン・ヘルス・クリエイツでは、センダンの植樹活動を通したワンヘルスの普及のため、福岡・大川家具工業会や福岡県八女森林組合の協力のもと、「第2回ワンヘルスセンダンプロジェクト」を実施。地元高校生を含めた参加者60人が、矢部川上流の水源地に200本のセンダンを植樹。
- ・八女市では、イノシシによる被害防止対策のため、北田形地区の農地に隣接した里山林において、人と野生動物の棲み分けのための緩衝地帯の整備に着手。イノシシの出没の抑制とともに、農作物の被害軽減を目指す。
- ・J Aみなみ筑後大牟田筍部会は、たけのこ生産管理の見本となる展示竹林において、生産者を対象とした生産管理講習会を開催。林業普及指導員が講師となり、伐竹手法や適時の肥培管理について説明。部会では、シーズンを通じた安定出荷を目指す。
- ・みやま市の県指定有形文化財である清水寺三重塔周辺林地で、地すべり性の変状が発生。保全を図るため、令和4年度から治山事業による対策工事に着手し、7年3月に完了。

地域のトピック

○ 林業ICTの活用定着により、事務処理の大幅な省力化を実現

- ・福岡県八女森林組合では、植栽の面積や区域把握のために、従来は現地で測量を行っていたが、令和3年度からドローンによる撮影データを基に、面積の計測や図面を作成する方法を試行。
- ・また、森林組合と農林事務所が連携し、5年度からは植栽に係る造林補助事業全ての申請やしゅん工検査にドローン撮影データを活用。
- ・6年度はこの取組が定着し、事務処理の大幅な省力化を実現。



ドローンで撮影した植栽区域

6 行橋農林事務所管内

■ 農業

- ・令和6年11月に京築地域で初めて、就農希望者が就農準備資金を受給しながら農業技術を習得できる県認定の研修機関（トレーニングファーム）を設置。関係機関・団体・農業者が連携し、研修環境や研修体系の整備を進め、効率的な農業技術習得を後押し。
- ・JA福岡京築が6年4月から5月に大豆部会、麦作部会を設立。7年度に切替予定の県育成大豆品種「ふくよかまる」（ちくしB5号）の実証ほ設置に加え、研修会・栽培講習会の開催などを通じ、収量・品質の向上への取組を強化。
- ・県産のキウイフルーツ花粉の供給に向け、キウイフルーツかいよう病の未発生地域である行橋市の事業者が、県委託事業により花粉の生産に着手。普及指導センターでは花粉精選の作業マニュアルを作成するなど、効率的な花粉生産の取組を支援。
- ・管内11の経営体が、2年から5年にかけて、水田農業DX推進事業を活用し、トラクターやドローンなどのスマート機能付きの高性能農業機械を導入。農作業機械の大型化や農作業の効率化により、経営面積は導入前から約5割増加し、1戸当たり25haに拡大。
- ・行橋市の辻垣・道場寺・高瀬地区で約36haのほ場整備工事が完了し、7年2月にしゅん工式を開催。大型機械の導入効果も加わり、担い手への農地集積率は約8割に向上、担い手の労働時間は約4割短縮。

地域のトピック

○ まつきみのる 松木 実氏（みやこ町）が農事功績者表彰で緑白綬有功章を受章

- ・みやこ町の有限会社松木果樹園代表の松木実氏が、地域農業の発展に貢献した農業者を表彰する令和6年度農事功績者表彰で、緑白綬有功章を受章。
- ・松木氏は、落葉果樹栽培と農家レストランを経営。有機物施用や草生栽培での土づくり、有袋栽培や黄色防蛾灯での減農薬栽培により、環境負荷低減農業を実践。
- ・加えて、県農業大学校や農業高校の研修生を積極的に受け入れ、非農家から就農者を輩出するなど、新規就農者育成を通じ、地域農業の振興に大きく貢献。



緑白綬有功章を受章した松木氏
（写真中央）

■ 林業

- ・シカ食害対策として、造林時に筒状の資材で苗木を保護する単木保護を推進。保護資材は苗木の成長に伴い撤去する必要があるため、撤去の最適なタイミングと経費について調査を実施。除伐^{※1}と同時施工が経済的に有利であることが調査で明らかになり、今後は、関係者に周知するとともに、撤去後のシカ被害状況を追跡調査。
- ・福岡県立行橋高校環境緑地科の2年生5人に対し、3日間の現場体験研修を実施。チェーンソーや林業機械の操作体験に加え、最終日には林業経営体の企業説明会を開催。この研修により林業への興味を醸成し、就業につながることを期待。
- ・「京築のヒノキと暮らすプロジェクト（ちくらす）^{※2}」では、大学生がデザインした8種類のクリスマスオーナメントを作るワークショップを北九州市の百貨店で実施。その販売収益で、参加者を対象としたチャリティ植樹会をみやこ町鑑畑小学校跡地で開催し、木育活動を展開。
- ・築上町高塚地区の海岸松林を守るため、建設から40年以上が経過し老朽化した全長約1kmの治山施設（防潮堤）の長寿命化対策を実施中。令和6年度までに約4割の工事が完了。今後も強風や高潮の被害軽減に寄与するよう9年度の完成を目指す。

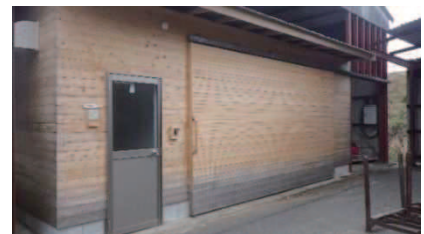
※1 除伐: 植栽木の生育を妨げる他の樹木を切り払うとともに不要な枯枝葉を切り落とす作業。

※2 京築のヒノキと暮らすプロジェクト（ちくらす）: 平成27年度から開始した京築地区森林・林業推進協議会と地元の大学等による産学官連携で、京築ヒノキの新たな活用方法を提案する取組。

地域のトピック

○ 豊築森林組合の小型人工乾燥施設が完成

- ・豊築森林組合の京築ブランド館では、平成22年度から京築ヒノキをはじめとした地域材で木製品を製作、販売。
- ・近年、小中学校や市町からの地域材を使った机やイス、棚といった木製品の注文が急増しており、更なる品質向上のために小型人工乾燥施設を整備。
- ・同組合所有の小径木加工場で発生した廃材を利用し、薪ストーブにより低温乾燥させるもので、今後、更に木の良さ（色味、風合い）を活かした高品質な木製品の提供を目指す。



小型人工乾燥施設全景



熱源の薪ストーブ